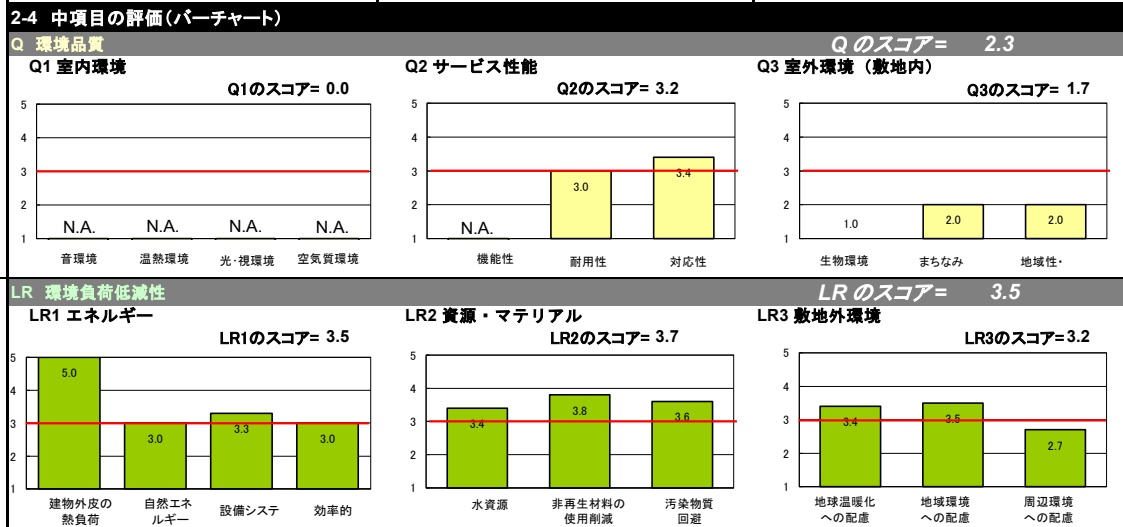
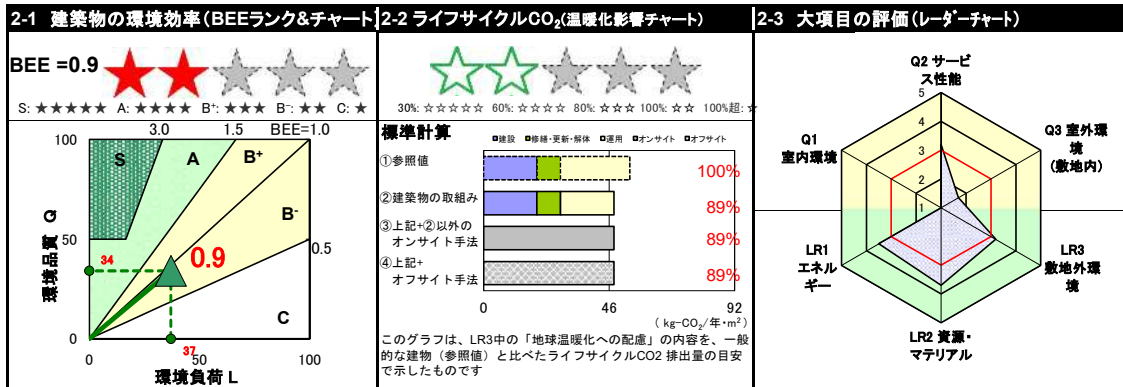


CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BC_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	山崎商事運輸(株) 倉庫棟	階数	地下0階地上2階
建設地		構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年5月 予定	評価の実施日	2026年3月19日
敷地面積	11,799 m ²	作成者	矢野 雄嗣
建築面積	5,111 m ²	確認日	2026年3月23日
延床面積	8,957 m ²	確認者	矢野 雄嗣



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>15.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
山崎商事運輸(株) 倉庫棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	外皮性能	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3	ゾーン別制御性	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1	屋光率	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	方位別開口	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3	屋光利用設備	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策										
1	屋光制御	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気										
1	換気量	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	自然換気性能	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観 (天井高)	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3	内装計画	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2	免震・制震・制振性能	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数	0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備	0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3	電気設備	3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4	機械・配管支持方法	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5	通信・情報設備	3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4	
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	平均階高:6.475m	-	5.0	0.60	-	-	-		
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.11	3.0	4.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-		
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	ケーブルラックでの配線により仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる OAフロアでの配線により仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	-	3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	1.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	1.7	
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		独自④	2.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー					0.40	-	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.59	3.0	5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI=0.77	3.0	3.3	0.50	-	-	3.3	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	-	3.7	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水			省水型機器(擬音装置)の採用	3.0	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自	3.0	5.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			② 独自	3.0	5.0	0.24	-	-		
LGS下地:躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAフロア:内装材と設備が絡みせず容易に分別可能										
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォームA種1(ODP=0、GWP=1)の採用		-	5.0	0.50	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境					0.30	-	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率89%	-	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	3.5	
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	② 独自	プラスチック製雨水貯留槽の採用(雨水流出抑制対策を実施)	-	4.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制	② 独自		-	3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	② 独自	自転車・乗用車・荷捌き車両駐車スペースの確保、駐車場導入路への配慮	-	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-		
1	騒音	② 独自		-	3.0	1.00	-	-		
2	振動	② 独自		-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	1.0	0.70	-	-		
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:15.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 山崎商事運輸(株) 倉庫棟

計画上の配慮事項	
総合	環境配慮の為、省エネ機器の採用、緑地の整備を行った。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	・タイルカーペットやビニルクロスを採用し、内装仕上げ材の更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	・緑地を設け、景観性に配慮した。
LR1 エネルギー	・高断熱、高効率設備を採用し省エネルギーに努めた。
LR2 資源・マテリアル	・LGS下地を採用し、躯体と仕上げ材が容易に分別可能とした。 ・OAフロアを採用し、内装材と設備が錯綜せず容易に分別可能とした。
LR3 敷地外環境	・緑地を設け、地表面の温度上昇の抑制に努めた。 ・駐輪場、その他駐車スペースを敷地内に適切量確保。 ・大型車(荷捌き用車両)用の出入口を分け、更に乗用車用の出入口を別途設けて 駐車場導入路へ配慮することで周辺道路の渋滞緩和に努めた。
その他	特になし